News of the forest

No.868
2026 January
FREE
ご自由に お持ちください。

岐阜県の森林・林業

森林のたより

昭和100年を生きた森
（東白川母樹林公園）

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会
E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp
http://www.g-forestry.or.jp （公社）岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

新年のご挨拶

(公社)岐阜県山林協会
会長　山内　登

新年明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。また、旧年中は当協会の運営に格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、2月に県政の新たな舵取り役として江崎禎英知事が就任され、10項目の政策目標を打ち出されました。目標には「森林」も盛り込まれ、境界不明森林の解決に向けた制度構築や、新たなエネルギー資源となる「バイオコークス」の開発など、森林管理と林業の持続性を高める対策を就任直後から強力に推し進めていただいております。改めて感謝を申し上げますと共に、更なる進展をご祈念申し上げます。

一方、国内では55年振りに大阪で万博が開催され、世界最大の木造建築物となったシンボル「大屋根リング」の建設には、県内の複数の企業が携わっており、その技術力の高さを国内外に大いに発信することが出来ました。

他方で昨年も夏場の平均気温が上昇し、線状降水帯による豪雨災害が各地で多発しており、この時期の異常な暑さと集中豪雨は避けられないものになってきました。こうした中、本県ではこれまでも治山や森林整備による「災害に強い森林づくり」が進められてきましたが、引き続き安全・安心な県土づくりのため、必要な防災・減災対策を間断なく行えるよう、国に対して令和8年度から新たに始まる国土強靭化対策の着実な遂行を強く働きかけてまいります。

さて、本年は昭和元年から起算して「満100年目」の年です。激動の時代と言われた昭和を振り返りますと、前期は相次ぐ戦争とその復興のため、大量の木材が伐採され、森林は荒廃し山地災害が多発していました。憂慮し難いこの状況に、終戦直後から官民一体となった植林と治山治水対策が行われ、その努力の積み重ねが今日の豊かな森林の礎となっています。

その一方で高度経済成長期には、国産材の供給不足に対応するため木材輸入が完全自由化され、結果として安価な外材利用が増大し、林業の採算性悪化、森林所有者の山離れ、未整備森林の拡大等の課題を発生させ、平成中期には木材自給率は2割を下回りました。

こうした状況に対して、本県では大規模工場等の誘致や、路網整備と高性能林業機械を組み合せた低コスト林業を推進し、ここ十数年間で木材生産量は2倍以上の68万立方まで回復しました。しかしながら人工林の年間成長量は100万立方を優に超え、50年生以上の林分が約7割を占めるなど、その多くが成熟し更新期に移行しています。加えて温暖化対策のため、二酸化炭素吸収源として森林への期待が高まる中、今や森林の若返りは喫緊の課題であり、主伐と再造林、そのための路網整備、木材利用、森林技術者の育成などを更に推し進めるため、皆様と一丸となって取り組んで参ります。

最後に、森林づくりは、「親が植え、子が育て、孫が伐って利用する」という三代にまたがる息の長い営みと昔から言われており、まさに「100年の計」そのものです。協会としても、こうした基本に立ち返り、本県の豊かな森林が生み出す多様な恵みを次の100年先の県民も享受できるよう、各種活動に積極的に取り組んでまいりますので、皆様のご支援をお願い申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

目次 Contents

新年のご挨拶　(公社)岐阜県山林協会　会長　山内　登……2
新年のご挨拶　岐阜県林政部長　久松　一男……3
ぎふ木遊館　2026ウィンターフェスタ開催！……3
森林サービス産業全国交流会
Forest Value Summit 2025のあしあと……4
岐阜県緑化功労者表彰、岐阜県林業経営コンクール
岐阜県木質バイオマス利用優良事例の表彰式を開催……5
森林と人を活かす知恵(156)
森林の利用と存在の効用を知らしめる『ぎふ木育』と
「森林文化アカデミー」……6
地域の人　揖斐地域の新しい仲間の紹介……8
森林土木の技術承継に向けた取組み……9
山の歳時記(245)　スギ……10
今年も「ぎふ森フェス」を開催しました！……11
ぎふ木遊館通信……12
morinos　出前体験！……13
森の恵みを楽しむ！　森林文化アカデミー「翔楓祭」開催……14
シリーズ：『森林・環境税』で；緑豊かな清流の国ぎふづくり！(9)……16
研究コーナー　国産の白トリュフ(ホンセイヨウショウロ)を
人工的に発生させることに成功しました……17
普及コーナー　可茂地域の普及活動について……18
スマート林業通信(50)……19
国有林の現場から(111)
バイオコークスとは？天保林とは？過去とこれからの森林活用を学ぶ……20
令和7年度第3回山県市森林づくり会議……21
林業者向けお知らせ……22
市況

今月の表紙

今年は昭和元年から満100年目、激動の昭和を顧みる行事が各所で開催されます。写真はこの間を逞しく生き抜いた樹齢100年を超えるヒノキ林で、これらも先人の叡智と努力の結晶です。

新年のご挨拶

岐阜県林政部長
久松　一男

明けましておめでとうございます。皆様にはお健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、「２０２５年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」が開催されました。日本の伝統的な木造建築技術が生かされた「大屋根リング」は、万博のシンボルであり、日本の木造文化を世界の方々と体感できた年でした。

また、平成以降で最大となった岩手県大船渡市をはじめ、岡山県岡山市や愛媛県今治市など各地で大規模な林野火災が発生するとともに、人里に下りてくるクマにより、過去最多の人的被害が出るなど、森林に関係するニュースが多い年でもありました。

県では、2月に20年ぶりに知事が交代し江崎知事が就任いたしました。江崎知事は、自身が森林所有者でもあることから、森林資源の活用に対して強い意欲を持って取り組んでおられます。とりわけ森林の整備や活用に大きな支障となっている森林の境界や所有者の不明問題の解決などに対して注力しているところです。

さて、岐阜県の森林づくり基本計画では、これまで、第1期の「生きた森林づくり」を主軸として、第２期から４期まで「恵みの森林づくり」、「森林の新たな価値の創造」と、それぞれ新機軸を加えて取り組んでおります。

今年は、令和４年度から始まった第４期の仕上げの年になります。

まず、再造林対策として、シカ防護柵等の維持管理体制の強化や苗木等の運搬にドローンを活用するなど生産性向上や労働負荷の軽減に取り組むとともに、林野庁だけでなく、他省庁の予算の活用も進めてまいります。

また、奥山などの林業経営が困難な針葉樹人工林において、管理に人手をかけなくても山地災害リスクの低減など公益的機能の維持が期待できる針広混交林への誘導を進めるため、モデル事業を進めてまいります。

さらに、出口戦略である、県産材の需要拡大の取組として、住宅に加え、非住宅建築物の木造化や内装木質化を推進するため、「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」に基づき、昨年末までに42事業者と県産材利用促進協定を締結しました。引き続き、非住宅建築物における県産材利用の実例を増やしていくことで、需要を拡大してまいります。

森林空間を活用した新たな価値創出に取り組む「森林サービス産業」では、「ぎふ森フェス」を開催したほか、全国で初めて「森林サービス産業全国交流会」を開催しました。今後も森林サービス産業の振興に取り組んでまいります。

また、「Ｇ－クレジット制度」は、これまでに６，９２６ｔ－ＣＯ２のクレジットを認証し、建設業をはじめ多くの企業等の皆様にご購入いただいています。今後は、クレジットの創出拡大を図るとともに、活用方法の拡充などによる魅力向上に努めてまいります。

さらに、「ぎふ木育」では、昨年７月には、郡上市及び揖斐川町において地域の特徴を生かしたサテライト施設の設置を決定し、東濃（中津川市）、飛騨（高山市）に続き、県内の５圏域全てにおいて「ぎふ木育」の拠点施設が整備されることとなりました。今後は、これらのサテライト施設と連携し、「ぎふ木育」の全県展開を進めてまいります。

また、今年は、令和９年度から始まる第５期森林づくり基本計画を策定する大切な年度でもあります。昨年は、多くの皆様にご意見をいただき感謝申し上げます。今後は具体的な施策を検討し、計画案として取りまとめのうえ、改めてご意見を伺うこととしております。引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、本年が森林・林業・木材産業の発展に向けた飛躍の年となりますよう祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

ぎふ木遊館　2026ウインターフェスタ開催!

❶日時　令和8年1月31日（土）12:50~16:30

❷内容
◆第1部（12:50~14:30）
Beans♪と一緒に歌おう　プチコンサート♬
トークライブ「絵本の力～わきたつ自分」
出演:ぎふ木遊館名誉館長　竹下 景子 氏
絵本作家　村上 康成 氏

◆第2部（15:00~16:30）
Beans♪と一緒に遊ぼう　プチコンサート♬
◆木育プログラム（15:00~16:30）
万博で!世界の人たちと作ったお花+1

フェスタの詳細とお申込み方法は
ホームページをご覧下さい。

お問い合わせ先　ぎふ木遊館
TEL 058-215-1515

森林サービス産業全国交流会

Forest Value Summit 2025 のあしあと

共催：ぎふ森のある暮らし推進協議会・岐阜県
「緑と水の森林ファンド」助成事業（（公社）国土緑化推進機構）

「森林サービス産業全国交流会　Forest Value Summit 2025」とは？これは、森林空間を多様な分野で活用する全国の事業者が集い、森林空間活用や森林サービス産業の先進事例を紹介するシンポジウムのこと。「聞くだけ」ではなく、参加者自身も自分の事業を発信できる場があり、登壇者も参加者として他県の事例を聞き、他の参加者と感想を共有し合う交流会でもあります。

11月４日から５日の２日間、トヨタ白川郷自然學校にて開催されたこのシンポジウムは、約100名が参加しました。県外では秋田県から岡山県まで、東北、関東、中部、近畿、中国地方の19都府県の参加者が白川村に集いました。参加した皆様が、本気で森林サービス産業に向き合っていることが伝わりました。意見交換の時間では、発表を聞いた感想や、参加者自身の事業についての課題、疑問、解決策を共有し合っていました。

参加者からの声には「有意義な時間だった。」「もっと交流したかった。」「森に大きな未来と希望を感じています！」といったものがありました。「来年も開催してほしい」という声も。

森林サービス産業に取り組む事業者を支援する運営側も大変学びになりました。「森林サービス産業の何が課題なのか」「“森林” だけに焦点を当てた考えが、森の魅力を浸透させることにつながるのだろうか」登壇者及び参加者からの意見が、皆様にとって良い刺激となりました。ありがとうございました。

来年も開催が実現できるよう、本協議会及び岐阜県は精進してまいります。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました

「Forest Value Summit 2025」がどのような内容だったのかは、下記のURLからご覧いただけます。
https://pousse.xsrv.jp/ForestValueSummit2025_report/

【問い合せ先】ぎふ森のある暮らし推進協議会事務局（岐阜県森林活用推進課 森林サービス産業支援係）
TEL:058-272-8472　　メールアドレス:c11513@pref.gifu.lg.jp

岐阜県緑化功労者表彰、岐阜県林業経営コンクール 岐阜県木質バイオマス利用優良事例の表彰式を開催

昨年10月17日、岐阜県庁において本県の森林・林業の振興に貢献された方々などに対する3つの表彰式を合同で開催しました。

表彰式では合計6名の受賞者に賞状等の授与が行われ、その後、久松林政部長から長年のご功績に対する感謝と今後のさらなるご活躍を祈念する旨の挨拶がありました。

岐阜県緑化功労者表彰

緑化運動の推進や青少年の育成指導等に貢献した個人・団体

川尻　三良（郡上市）

岐阜県林業経営コンクール

森林の適切な育成や、新たな林業技術の開発導入などを行う個人・団体

村田　重信（高山市）

岐阜県木質バイオマス利用優良事例

木質バイオマスを効果的に利用して森林資源の持続的な地域内循環に貢献している施設・団体の事例

<施設部門>

最優秀：石川いちご農園（恵那市）

優　秀：飛騨高山しぶきの湯発電所（高山市）

<県民協働部門>

最優秀：特定非営利活動法人
活エネルギーアカデミー（高山市）

優　秀：穂積（ほづみ）建設株式会社
バイオマス事業部（郡上市）

【写真左から】
谷渕庸次さん（飛騨高山しぶきの湯発電所）、
石川右木子さん（石川いちご農園）、
久松林政部長、
山崎昌彦さん（特定非営利活動法人活エネルギーアカデミー）、
下牧成男さん（穂積建設株式会社）

●詳しい内容を知りたい方は下記まで
岐阜県緑化功労者表彰：TEL058-272-8255　森林活用推進課　森林吸収源対策室緑化推進係
岐阜県林業経営コンクール：TEL058-272-8491　森林経営課　林業改革室　担い手企画係
岐阜県木質バイオマス利用優良事例：TEL058-272-8491　森林経営課　林業改革室　木質バイオマス産業係

森林と人を生かす知恵 156

森林の利用と存在の効用を知らしめる「ぎふ木育」と「森林文化アカデミー」

岐阜県立森林文化アカデミー　学長●涌井　史郎

17世紀。近代の曙と言われているその時代、欧州では科学する姿勢を濃厚にする傍ら、神と科学と自然の関係について、様々な見解が思想として登場した。取り分けR・デカルトは自然は人間とは異なる数学的・機械的に動く存在として、精神と自然（物体）を二元論的に位置づけ、それが後世の科学的見地の常識となった。対してJ・ルソーのように一元論的な異論を唱えるごく少数の賢者達もいた。

こうしたそもそも論に西欧が強くこだわる理由は、キリスト教の教理と共に、彼らの大地が厳しい自然環境下にあり、必ずしも豊かではないことを示している。かの和辻哲郎が喝破したように、かの地には雑草というものが無い。森林も又多種が混交する森ではなく、限定種によって構成される森林により構成され、豊かさという観点からは、中東、中国といった草原と砂漠に覆われた大陸に営まれる国々とそう大きな違いはない。

そうした土地に生きるものは、自然から食料を常に探し出し、人間の強固な意志と行動、例えば、狩る或いは飼う、そして耕す、移動せねば飢えるという厳しい自然条件下に置かれていた。

故に天上界の星に絶対神の存在を投影し、天と地を結ぶ絶対神・その使徒・人間・自然といった強固な三角錐の秩序を神の秩序として長く認識してきた。よって自然は神が創造した神の荘園であるが故に、二元はより良い管理人、つまりステュワードシップを倫理的に備え自然に対峙するべきと考えてきた。

ところがアジアはどうであろうか。多種多様な生物種が存在し、ちょっとした工夫があれば、おのずから腹を満たすことが出来る。そればかりではない。住まいや道具も同様である。ましてや、温帯モンスーンに位置するこの列島の自然の多様性は、極めて多様な恵みにあふれている。我国の森林率は世界2位であり概ね68％と言われ、世界1位のフィンランドを例外とし、欧州を平均した森林率が46％であるという数字上の違い。人類が新石器時代に移行した時代にこの列島では、狩猟採取、そして小面積の耕作を行い、土器を創作し煮炊きという新たな調理法を編み出し、その傍らで自然信仰という精神文化まで産み出した「縄文時代」が1万年近く続いた事実からもその違いが理解できよう。

しかし比較論では確かにそうした違いが理解できるが、その土地しか知らぬ人々は、いくら豊かと言っても、眼前に広がる森林と、それによって構成される生物多様性がもたらす資源が日常に展開していれば、あって当たり前な存在としてしか映らない。日常の暮らしの全てが森林に支えられている事すら当然と理解をしてきた。観念的には森林をはじめ全ての自然物や災害を含めた動態全てに神性を感じ、信仰心を抱いてはいても、現実には存外粗略な扱いをしていた。その極致が急速な人口増を数えた江戸時代である。

そのころの国土の景観は「デフォルメの北斎、真実の広重」と言われた歌川広重の東海道五十三次の作品に明らかである。そこに描かれた沿道の山々は殆どが禿山であり、僅かに松類が残された景観が江戸から京都にまで続く。人口増と共に、森林が日常のエネルギー消費を賄う薪や炭、建築資材の供給を担う産出地と化したからである。

もとよりそうした安易な森林資源の浪費を戒めるために、「御留山」といった保護林や、神域として禁忌で守る努力はされたが、日々の暮らしの求めには叶わなかった。

そうは言っても世界には類例のない自然保護の思想と体系が、太古の昔からわが国に存在をしていた事実は見逃せない。何故ならば我が国の国土全般にその痕跡が野化され今に至っているからである。

野良と里を人間主体の二次自然「里山」や草地生態系としての「野辺」が囲

み、その外周部には神仏が居します「外山」「奥山」があり、最奥には神仏が降臨する「嶽」が存在するという世界観をそのまま投影した土地利用が全国に存在する。それは里山と野辺を境に、保全しながら自然を利活用する空間と、保護を専らとして、災害や非常時に備える空間を神仏に託して守る思想と慣習を大切にしたコンサーベーションエリアとプレザベーションエリアの双方を明確に区分してきた自然共生の叡智とでもいうべき姿である。

自然を資本財として位置づけ、その存在を重視してきたわが国の伝統的文化観も、江戸時代の物理的乱伐こそ無いものの、現在、我が国の総人口の内、都市居住者が国際的統計では92％、農水省の2019年の試算では約8割を占める様相を呈するようになると、森林の存在効用は人々の意識から大きく乖離し、森林は山岳地帯の景観物、つまり非日常的存在の景色の一部としてしか人々の心象に映り込まない状況に至っている。

自然と常に対峙した日常。恵みも災いもそこに住む人々の自然への姿勢如何で決まるという緊張感が支配したかつての自然観ははるか彼方に遠のいてしまった。それでも森林は、日常を相変わらず飲料水や食、建築資材など多くの場面で支えている存在であることには変わりない。

加えて、今我々はこの地球上に存在し続けられるか否かが問われるほどの危機に晒されている。そうした状況を招いた一大要因である二酸化炭素の増大。その吸収源として、森林以上に機能する自然的要素はなく、多くの生物種をその懐に抱え、生息を許す存在も又無い。巨視的に眺めれば、半径およそ6400㎞の大きさの地球上に、たった30㎞の厚みしかない地圏・水圏・大気圏に三分割された薄い膜状のエコシステムが創り出された生物圏。それは、森林を主役に多種多様な生物が生産・消費・分解といった作用を担い、エネルギーと物質の循環系を創り出し、安定した環境を永続的に生み出していればこそ、我々の生存を可能にしているといって良い。

ここに森林の価値を知らしめる教育「木育」の意味がある。ドイツでは「森の家（Haus des Waldes）」と呼ばれる広大な森を背景にした市民の為の森林を知る教育施設が整えられ、そこでは森林の地球環境に対する役割としての存在効用と、資材としての利用効用の双方を容易に体感し学べる。それをモデルに県立森林文化アカデミーに開設したのが「モリノス」である。

森林文化アカデミーは、一方で森林資源を対象により良い経済林経営を行う技術とマネージメント、さらに奥山・中山間に暮らす人々を経済的に支える為に、森林空間そのものの環境価値を高め、安全で安心に空間利用を楽しめるサービスビジネスの場としての機能を強化する教育、用材としての多岐に亘る先進的な建築や木工についての技術と創作力を身につける教育を2か年の専修教育を中心に、社会人に対しても継続的専門能力開発教育（CPD）を行い、森林並びに山村社会に寄与する人材教育とその開発に力を注いでいる。

しかし、その一方で極めて残念なことに、市井の方々におかれては、森林が果たす恩恵への感謝やその構造への理解が日々薄らいでいるのが現状である。そこで、岐阜県では平成15（2003）年、「緑の子ども会議」を皮切りに、幼児から大人まで幅広い年齢層を対象として、森林環境教育。つまり木育の取組みを県民協働で進めていくため、その目指す姿や理念を共有する「ぎふ木育30年ビジョン」を策定した。

その延長線上に、その後さらに「モリノス」、そして「木遊館」の整備が実現され、双方が一体となって「ぎふ木育」の定着を図っている。都市の中で木の肌触りや香りを幼い頃から体感し、森の素材を幼少の感性に定着する事を目指した木遊館。森そのものの中に没入しエコシステムを目の当たりに感じ、理解をするモリノス。

そのいずれもが、森林県と呼ばれながらも森林への理解が遠のく岐阜に於いて可能な限り森林を身近に引き寄せ、理解し、その恩恵を感じ、やがては専門家のみならず県民が協働して、地球から地域に至るまで重要な貢献をしている森林の豊かさと健康を維持する為に「県民協働」の志を深められるよう「ぎふ木育」の拠点として、日々努力を傾けたい。

●詳しい内容を知りたい方は　TEL (0575) 35-2525　県立森林文化アカデミー まで

揖斐地域の新しい仲間の紹介

揖斐郡森林組合　森（もり）　一真（かずま）さん

今回は、岐阜農林高校を卒業後、令和6年4月に入社した森一真さん（20歳）を紹介します。

林業の世界に入ろうとした動機は？

高校で森林科学科を専攻しており、高校で学んだ知識や経験を生かしたいと思ったからです。

揖斐郡森林組合に就職したきっかけは？

高校在学時に受け入れていただいたインターンシップがきっかけです。実際に現場に入り体験させていただいたコンパス測量がとても面白かったのが印象に残っています。また、普段なら絶対入らない山奥に入っていけるのも大きな魅力ですね。

日頃の業務内容は？

事業地の測量、森林所有者の方の同意のとりつけ、現場の作業班との各種調整、施行状況写真の撮影、関係書類の作成が主な業務内容です。基本的には先輩に付いて業務を行っていますが、測量は一人でもできるようになりました。

仕事をしていて楽しいと感じること、逆につらいと感じることは？

山の中を歩きますので、季節によって様々な草木やキノコを目にするのは楽しいですね。山で採れた山菜やキノコを天ぷらにして山の中で食べるお昼ご飯は格別です。

傾斜のきつい山を登る時は体に堪えますが、就職して1年以上が経過し、以前より体力がつきました。山の歩き方も分かるようになってきました。

プライベートでの趣味は？

体を動かすことが好きで、最近は友人とよくランニングをしています。昨年は地元で開催される「いびがわマラソン」に出場しました。土日にしっかり休みをとることができるので、メリハリのある生活を送ることができています。

いびがわマラソン２０２５に参加

これから林業を志す人へ一言

林業のイメージとして、体力的にとてもきつい仕事という印象があると思います。確かにきつい面もありますが、それ以上に楽しいことがたくさんあります。自然に興味がある方にはもちろん向いていると思いますが、むしろ自然に興味がない人の方が山の魅力を感じやすいのではないかと思います。どんな人でもできる仕事だと思いますので、是非林業の世界に挑戦してみてください！

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0585-23-1111内線（442）
揖斐農林事務所　林業課　森林整備係まで

森林土木の技術承継に向けた取組み
～技術指導総括職の創設～

岐阜県林政部　森林保全課

1. はじめに

治山林道事業を業務とし岐阜県下に7事務所あった山林事業所が、林務及び農政の事務所と統合され今年で２５年が過ぎました。当時は、この事務所の中で、森林土木業務にどっぷりと浸かり、新人が熟練者に熟成されていく仕組みが確立されていました。そして現在その中で育てられた職員が退職を迎え、これまで治山林道事業を支えてきた人材が一気に消失していく時代に入ってきました。

2. 本県の現状

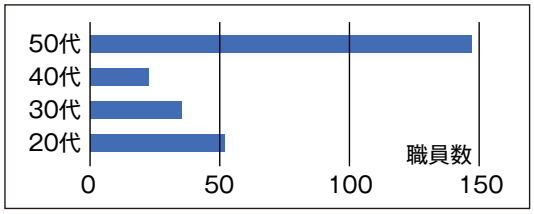
岐阜県の林業職は、本庁５課、現地機関１０事務所、その他３機関等を含め２６１人が勤務しています。その中で森林土木に携わった職員は９１人在籍し治山事業を経験した職員が多い現状です。（表1）

表1　森林土木職員の現状　　単位：人（%）

機関別	林業職	森林土木職	治山	林道
合　計	261	91（35%）	75（82%）	16（18%）
本　庁	64	24	19	5
現地機関	124	56	50	6
他機関等	73	11	6	5

一方、その年齢構成は、歪な形態を呈しており（グラフ1）、今後10年間で現職員の６割が消える大退職者時代を迎え、事業量の縮減や技術力の大幅な減退が間近に迫ってきている状況です。

グラフ1　林政部世代別人数　　単位：人



3. 指導総括職の創設

このような現状は、県議会でも認識されており、一昨年の１２月県議会で一般質問をきっかけに若手職員にベテラン職員の持つ知識・経験を伝え、適時サポートが受けられる体制を整える取組みとして、今後、定年引き上げで増加が見込まれる６０代の技術職員を、現地機関に配置する、あるいは各現地機関を巡回・指導する仕組みの導入に向け検討することとなりました。その結果、林政部においては、令和7年４月から役職定年を迎えた３名の森林土木技術職員が「指導総括」の辞令を受け、本課1名、現地機関２名が配置され取組みをスタートしたところです。

4.主な取組み

現在の指導総括の主な取組みは、以下のとおりで、現地機関の巡回や集合研修等により、出来る限りの指導や助言に努めています。ここで重要なのは、指示をするのではなく、作業を手伝うのでもなく、一緒に考えることです。

1）施工中の工事
- ・施工計画書の注意点
- ・指示協議の回答における注意点　など

2）計画策定
- ・現場を見るポイント
- ・工種、工法選定（特に、山腹対策）
- ・コスト感覚　など

5. 現状の課題

しかし現実の運用となると、指導する側、指導を受ける側、職員を管理する係長や課長からも色々な問い合わせが生じ、見えていなかった課題が浮き彫りとなりました。

このため、林政部次長をトップとする関係課課長、対策監、係長等計１１名で構成する「林政部指導総括会議」を4月より立ち上げ、毎月課題の整理と対応の検討を実施しながら並走運用をしています。なお、検討課題の主なものは次のとおり。

1）指導総括については
①業務の内容及び量の把握、②適任者条件とその権限、③勤務形態と配置

2）指導対象については
①新人から古参までの定義付けと選別、②アンケートによる意向調査

3）人事担当については
①退職予定者に対するリクルート、②新人の確保、③異動に関する配慮、④兼務を専任配置にできる定数確保

6. おわりに

今年度は、理想と現実の中で、この新たな「指導総括」という役割をどのように意味のあるものに定義づけ運用の道筋を見つけてゆくか大切な時期になると考えています。将来に渡りこれまで繋いできた治山、林道の技術が若い世代に引き継がれていく姿を願いながら、体制づくりに取り組んでいきます。

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線（4420）森林保全課まで

YAMA NO SAIJIKI 245

山の歳時記

スギ

文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事
川尻 秀樹

年の初めに旧年の感謝を伝え、新年の無病息災や家内安全、商売繁盛などを祈願する初詣。初詣に出かける神社やお寺の多くには、森が付随しています。

木の実を中心とした狩猟採集の「樹木の文化」が栄えた縄文時代から、「森」自体に「神が隠（こも）る」と考えてきたため、森を伐り開いて稲作中心の農耕文化に移行する弥生時代になっても、神の隠る聖なる森は伐採されず残ったのです。

日本を代表する初詣の名所、伊勢神宮（皇大神宮）や明治神宮の森には巨大なスギの木が生えています。大和三輪大社の「神杉」をはじめ、スギは全国各地で神木として崇められ、大杉神社、杉山神社などスギに由来する社名も多くあります。

スギ（Cryptomeria japonica）は、巨木となって真っ直ぐ高く成長するため、神（かむ）さびた印象があり、そのスギの木を通じて神が天と地を行き来するとも考えられたようです。

『万葉集』の巻十三には「神南備（かんなび）の　三諸の山に　斎（いわ）ふ杉」と神杉が詠われ、これに触れることを禁忌としてきました。

スギは1属1種の日本固有種で、属名のCryptomeriaのCrypto「隠れた」＋meria「宝、財産、部分」を意味し、種小名のjaponicaは「日本の」という意味です。これは「球果が葉で隠れているから」という説もありますが、これとは別に「日本の隠れた宝」であるとする説もあります。

本居宣長は『古事記伝』の中で、スギの名の由来は「進木」の意味で、ただ上へ進み上がる木と記しています。またスギの名は真直ぐの木「直木」に由来するとされ、江戸時代前期に縦挽き鋸が普及するまでは、割裂性の良いスギは角材から板材まで作ることができる利用価値の高い木材とされ、静岡県の登呂遺跡では田の畦道（あぜみち）からも大きなスギ板が多数出土しています。

しかもスギは成長が早く、材があまり固くないため、削ったり切ったりが容易で、曲げ加工も容易なため建築材や家具材に重宝されたのです。

『日本書紀』の第一巻　神代上には、素戔嗚尊がその子（みこ）五十猛神と一緒にたくさんの樹のタネを持って降臨し、筑紫地方から始めて大八州国（おおやしまのくに）、すなわち日本列島にタネを播いて青山にし、その功績を讃えて五十猛命として紀伊の国の大神として祀られていると、記されています。また『日本書紀』の一書第五の「樹種別伝」には、素戔嗚尊が髭を抜いて空中に放つとスギになり、……スギは舟を造るのに良いと言われた」と記されているほど日本を象徴する樹木なのです。

国指定特別天然記念物『石徹白のスギ』

今年も「ぎふ森フェス」を開催しました！

「ぎふ森のある暮らし推進協議会」では、10月1日から11月30日にかけ、県内各地の森林空間を活用した、トレッキング、マウンテンバイク体験、森林浴などの体験プログラムを楽しめるイベント「ぎふ森フェス」を、今年も開催しました。

今年は2回目の開催ということで、昨年度からパワーアップしたプログラムもあれば、新たに生まれたプログラムもあり、様々なプログラムが「ぎふ森フェス」を彩りました。しかし、雨天中止や、クマ被害の関係で森に入ることをためらう人が多くなってしまったのか、参加者数は昨年度より少なめでした。

それでも、プログラムに参加された皆様からは「ハマったのでまた来たい！」「いろんな森に会いたい」「とても良い時間を過ごせた」など、満足の声を多くいただきました。

プログラムをご提供いただいた事業者の皆様からは「森へ人を呼ぶ難しさを痛感した」「来年もチャレンジしたい」といったご意見をいただき、次回に向けた課題と可能性を共有する機会となりました。

ご参加いただいた皆様、そしてプログラムを実施していただいた事業者の皆様、誠にありがとうございました。来年度はさらに「ぎふ森フェス」が盛り上がるよう、準備を進めてまいります。

本協議会では、来年度も「ぎふ森フェス」のほか、セミナーや交流会などを開催予定です。協議会への入会を希望される方は、下記の事務局までお問い合わせください。

鹿肉のジビエ解体体験
（株式会社久保田工務店）

第17回森わら祭り2025
（一般社団法人MORIWARA）

小さな家「Kiidake」サウナ付き宿泊プラン
（佐々木建築）

森の東屋の茅葺き作業
（新岐阜興業株式会社）

問い合せ先
ぎふ森のある暮らし推進協議会事務局（岐阜県森林活用推進課 森林サービス産業支援係）
TEL:058-272-8472　　メールアドレス:c11513@pref.gifu.lg.jp

ぎふ木遊館通信

ぎふ木遊館オータムフェスタを開催しました!

11月16日（日）にぎふ木遊館オータムフェスタを開催し、多くの皆様にご来館いただきました。1日の中で多数のイベントを実施しましたので、代表的なイベントをご紹介します。

ぎふ木遊館開館5周年記念セレモニー

第1部では開館5周年記念セレモニーとして、郡上本染渡辺染物店 店主 渡邊一吉さんへ感謝状を贈呈しました。

渡邊さんには令和3年から現在に至るまで、季節に合わせた郡上本染の作品を当館に展示していただき、来館者の皆さんを楽しませてくださいました。春には端午の節句のお祝いとして人の身長をゆうに超える大きな鯉のぼりを設置していただいています。

また、ぎふ木遊館のイメージソング「ヒトツバタゴ」を作詞した竹下名誉館長、作曲したギタリスト伊藤智美さんと当館元館長の臼井規浩さん、ヴォーカルの伊藤花野さん、かわいい振り付けで踊ってくれた岐阜農林高校生徒のみなさんと当館スタッフさとやまさんが出演し、歌と踊りを披露しました。

渡邊一吉さん（中央右）へ感謝状の贈呈

式典後には竹下名誉館長と久松林政部長、当館古沢館長から升に入ったつみぼぼのプレゼント等、普段とは雰囲気の違うぎふ木遊館を、来館者の皆さんは楽しんでいました。

森の音楽祭

第2部には竹下名誉館長、ギタリスト伊藤智美さん、伊藤花野さん、当館元館長臼井規浩さん、当館スタッフで森の音楽会を開催しました。

開始前からお客さんはこれから始まる音楽祭にワクワクしていました。

音楽祭では全3曲演奏し、リズムに合わせて体を揺らす姿や、簡単な振り付けと共に皆さんで歌う姿など、終始賑やかな雰囲気でした。

飛騨高山のからくり屋台「指南車（しなんしゃ）」展示

ぎふ木遊館の駐車場に飛騨高山のからくり屋台「指南車」が展示され、多くの来館者の方にご覧いただきました。

当日は朝からクレーンを使って慎重に組み立てが始まりました。組立が完了した際には繊細な装飾と高欄の鮮やかな赤色が青空に映え、圧巻でした。高山から設置のため、お越しいただきましたNPO法人　活エネルギーアカデミーのみなさん、ご協力ありがとうございました。

☆ぎふ木遊館公式Instagramのご紹介☆

ぎふ木遊館で行われる木育プログラムやイベント情報、館内の様子や木のおもちゃの話等を公式Instagram にて発信しております！

まだ来館したことない方も当館の様子がわかりますので、ぜひフォローをお願いします。

GIFUMOKUYUKAN0717

やがてみんなの森になる

morinos

出前体験！

岐阜県立森林文化アカデミー・森林総合教育センター（morinos）では、すべての人と森をつなぐために様々な取り組みを行っています。今回は、岐阜県を飛び出して愛知県刈谷市での出前体験の様子を紹介します！

＜KARIYA大演会に出展！森の素材を刈谷にお届け！＞

刈谷市は、2025年で市制施行75年を迎える節目の年。それを記念したイベント「KARIYA大演会」が11月1日（土）に開催されました。「morino de Van（森の出番）※」を寄附してくださった住友林業株式会社を通じてご縁がつながり、morinos出前体験を出展しました。「morino de Van」で、「はだしのトレイル」、「木香るにおい袋づくり」、「ハンモックでリラックスタイム♪」、「morinosこけしづくり」の4つのプログラムを提供しました。

※morinos用に、動物や樹木をプリントしたワンボックスの車両のこと。

出前体験でおなじみのはだしのトレイル。最初ははだしで踏むことに抵抗があった子も、歩いているうちに、足裏の感触の変化が楽しくなり2周、3周…と何回も何回もチャレンジする姿が見られました。

おがくずを袋に入れて木の香りを楽しむにおい袋づくり。今回は森林文化アカデミーの学生が製材した時のヒノキのおがくずを使いました。香りを楽しむ方や「靴に入れて消臭剤に使います！」と言った方もいました。捨てられてしまうおがくずがこうして再利用されると、なんだかとってもうれしい気分になりました。

普段はなかなかできないハンモック。遠くからmorinosのブースのハンモックを見つけて、「あれやりたい！」と興味津々に駆け寄ってきた子どももいました。ハンモックに揺られてリラックスした時間を楽しんでいたようです。

1番人気はmorinosこけしづくりでした。リョウブという木の小枝に顔を描き、上の穴にお気に入りの葉っぱを挿して完成、というシンプルな工作です。1人でいくつも作って、こけしの家族にしたり、木の端材で土台やおうちを作ったりして思い思いの作品が出来上がりました。大小様々な大きさの枝に、いろいろな顔と葉っぱで個性あふれるこけしができるので、非常に盛り上がりました。

morinosのブースには800人近い人が来てくれました。こうしたイベントをとおして、自然遊びの楽しさや森や木材を身近に感じる気持ちが広まっていくとうれしいです。

morinos HPでは、こうした日常風景からプログラムまで、様々な活動報告を行っています。興味を持ってくださった方は、morinosのHP、YouTube動画をご覧ください。

ホームページ https://morinos.net

YouTube 検索「morinosチャンネル」

開館時間 10:00～16:00

定休日 毎週火・水曜日

morinosHP

YouTube「morinosチャンネル」

森の恵みを楽しむ！

森林文化アカデミー「翔楓祭」開催

岐阜県立森林文化アカデミーの学園祭「翔楓祭」（しょうふうさい）が昨年11月8、9日に開催されました。今年度も個性豊かな39の出展・企画が集まり、ご来場いただいた約900人のお客様に森の恵みやアカデミーの多様さを楽しんでもらえる2日間となりました。今年度はアカデミーが開学して25年の年に当たり、学生たちは記念冊子を制作するなどして当校の歴史を振り返るいい機会となりました。

テーマは「邂逅」

今年度の翔楓祭テーマは「邂逅」（かいこう）です。学生たちは、開学25年のこのタイミングに居合わせた偶然を、偶然のまま終わらせるのではなく、何らかの足跡を残したいとの思いから開学25年記念冊子「Sense of Wonder」を制作しました。記念冊子では、学生の自由な記事や川柳、短歌などの他、アカデミー開学時から教員を勤められてきた4人の教授による「四天王座談会」の特集ページを組みました。翔楓祭で販売したところ、100人以上の方に手に取っていただきました。

また、アカデミーが開学するまでの経緯やこれまでの歴史などが掲載された新聞記事を展示して当校の歩みを振り返りました。

森の恵みを楽しめる出展

出展では、シカとイノシシの肉を使った「ジビエカレー」やシカ肉のケバブ、鮎の塩焼きなど自然の恵みを味わえる飲食店が並びました。

ワークショップでは、フェアトレードで取り引きされたビーズと木を組み合わせたアクセサリーや木のお箸、コケを採集してビンの中で飾る「テラリウム」作りなど、こちら

も多彩な企画で大人から子どもまで多くの来場者を楽しませました。

また、林業従事者の腕前を競う「伐木チャンピオンシップinアカデミー」も開催。枝払いやソーチェーンの着脱競技などで会場を沸かせ、15m先の標的に木を倒す伐倒デモでは競技者が見事的に命中させると観覧者から拍手が送られました。

「オープンキャンパス」も同時開催

翔楓祭期間中は、「オープンキャンパス」も同時開催され、8人の教員による「模擬授業」を開講。将来のアカデミー生（？）や親子連れらが林業、森林環境教育、木造建築、木工の4専攻の教員による授業に耳を傾けました。

翔楓祭2日目の9日はあいにくの雨になりましたが、多くの方にご来場いただきました。この場をお借りし、感謝申し上げます。ありがとうございました。

また来年度も11月に開催予定ですので、多くの方のご来場をお待ちしております。

翔楓祭公式インスタグラム
@ gifuac_shofusai

翔楓祭公式ホームページ
https://sites.google.com/view/gifuac-shofusai/

岐阜県立森林文化アカデミー
森と木のクリエーター科
木造建築専攻1年　坂巻陽平

シリーズ

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

9

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

観光景観林整備事業
～観光道路沿いの景観向上のための森林整備を支援～

【事業目的】

観光道路等から眺望ができ、景観形成上の価値が高く、外からの呼び込みによる地域活性化等に資することができる森林を「観光景観林」として位置づけ、市町村による森林整備事業を支援します。また、森林整備と併せて行う地域の観光部局、観光協会等との連携を図った計画策定や人を森林内へ導くための施設の整備等を支援します。

【対象森林】

市町村が観光振興上、重要であると認める森林（民有林）とし、次に掲げる①～④の全てを満たす森林が対象です。

①市町村森林整備計画の森林配置計画の将来目標区分において「観光景観林」として区分された森林又は区分される予定の森林

②観光道路として、地方自治体または観光協会等において、通称（愛称）が付けられた又は同等の通称（愛称）があると認められる道路に近接する林縁から尾根までの森林

③1施行地の面積が0.1ha以上の森林とし、1沿線につき面積がおおむね1ha以上の森林

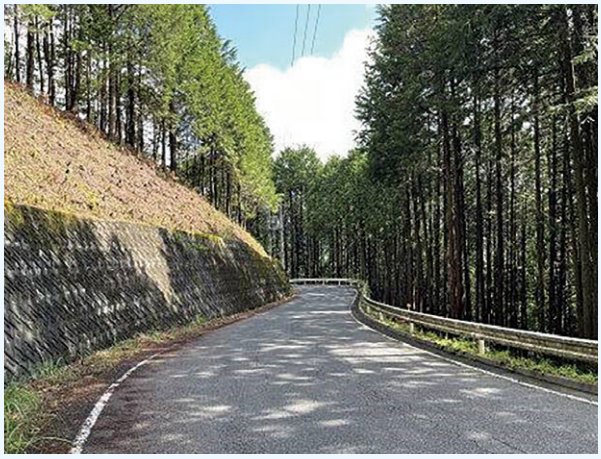
④森林所有者の同意が得られた森林であり、森林所有者との10年以上の非皆伐施業や間伐の実施方法等を定めた協定が締結された森林

【令和6年度の事業実績】

市町村	観光道路名	事業量（ha）	事業内容
養老町	薩摩カイコウズ街道	12.98	不用木の除去、景観形成のための植栽、計画策定
垂井町	半兵衛グリーンロード	－	計画策定
関ケ原町	戦国ロード	5.00	不用木の除去
高山市	さくら街道	10.74	不用木の除去

整備前

整備後



いいなか街道（恵那市　令和5年度実施）

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8255 森林活用推進課緑化推進係まで

研究コーナー

国産の白トリュフ（ホンセイヨウショウロ）を人工的に発生させることに成功しました

森林研究所　水谷 和人

はじめに

トリュフは、生きた樹木の根に共生する菌根菌で、世界三大珍味として知られる高級食材です。国内で流通するトリュフは、すべてヨーロッパや中国などから輸入されており（令和６年の輸入額は約24億円）、国内で採取されたトリュフは栽培されていません。

国内にもヨーロッパのものとは別種のトリュフが自生するため、それらを用いた栽培技術の確立が望まれています。

国内に自生するトリュフについて

我が国には二十種以上のトリュフが自生し、その中には食材として期待ができる種も存在します。特に、黒色のアジアクロセイヨウショウロ、および白色のホンセイヨウショウロが有望な食用として期待されています。黒色のアジアクロセイヨウショウロを人工的に発生させることに成功したことは、本誌８５４号で紹介しました。

ここでは、国内に自生する白色のホンセイヨウショウロの人工発生に関する取り組みについて紹介します。

白トリュフが共生した苗木を作る

コナラの種子を採取し、滅菌した鹿沼土で育てました。本葉が二～三枚になった頃、トリュフをミキサーで粉砕して苗木の根に接種し、鹿沼土に埋め戻しました。その後、照明付き育苗室で適宜散水して管理しました。三ヶ月ほど経過すると、ほぼすべての苗に菌根の形成が認められ、室内の環境下で白トリュフが共生した苗木を作ることができました（図１）。

図１　白トリュフ接種後３ヶ月のコナラ苗木

白トリュフが二年連続で発生しました

令和元年６月、室内で作成したホンセイヨウショウロの菌が共生したコナラ苗木を野外に植栽しました。植栽して４年４ヶ月が経過した令和５年秋に、キノコが発生しているのを確認しました。発生したキノコの大きさは様々で、直径２㎝を超えるものは４個でした。黒トリュフと同様に、国産白トリュフであるホンセイヨウショウロも人工的な発生に成功しました。

さらに、令和６年秋に同じ試験地（図２）で昨年よりも多い12個（直径２㎝以上）の白トリュフの発生を確認しました（図３）。二年連続で発生したことから、白トリュフの菌が定着し、土中で安定的に増殖している事が推察されます。

令和４年秋、森林総合研究所は、国産白トリュフであるホンセイヨウショウロを初めて人工的に発生させることに成功しています。岐阜県での発生はそれに続いての国内での人工的発生事例です。

おわりに

今回、国内に自生する白トリュフが二年継続して発生しました。この成果は、黒トリュフに続くものです。ただ、栽培技術の確立のためには、継続して安定発生させることが必要不可欠です。今後も、栽培の実用化に向けて、トリュフ発生の継続調査や再現性の確認、短期間で安定的に発生させる技術開発を進めます。

この成果は、農林水産省委託プロジェクト研究「高級菌根性きのこの栽培技術の開発（Ｈ27～Ｒ１）」の一部として得られたものです。

図２　白トリュフの発生地

図３　令和６年に発生した白トリュフ

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-33-2585
森林研究所まで

可茂地域の普及活動について

可茂農林事務所　林業課　林業普及指導員　福井　樹

●はじめに

可茂農林事務所管内は、岐阜県中南部に位置し、2市7町1村の10市町村からなる地域で、森林面積は6万9百haです。

大きな特徴としては、北部は東濃ヒノキの主産地でもある林業地域（七宗町、八百津町、白川町、東白川村）、南部は都市近郊森林地域（美濃加茂市、可児市、坂祝町、富加町、川辺町、御嵩町）に分かれ、それぞれ異なる普及活動が必要となる地域となっています。

今回は東白川村で開催された、「団地座談会」について紹介します。

●東白川村の特徴

東白川村の森林面積は、7千781ha、そのうち7千377haが民有林であり、民有林の人工林率は72・9％で、古くからヒノキを主に優良材生産を目指し、定性間伐を中心に森林づくりを進められてきた東濃ヒノキの産地です。

東白川村森林組合は、定期的に組合員を対象に団地単位で座談会を開催しています。

●「団地座談会」の概要

主　催：東白川村森林組合
対　象：森林組合員
参加者：88名（6団地、5回）
テーマ：東白川村の森林づくりと補助事業の現状について
内　容：
・東白川村の森林づくりについて
・森林整備予算と現状について
・森林環境譲与税について
・意見交換

開催日	団地名	会場	参加人数	普及員
10月14日(火)	越原北	越原センター	14人	福井Ag
10月15日(水)	神土北	五葉会館	16人	土屋Ag
10月16日(木)	神土南	鮎ヶ瀬会館	17人	土屋Ag
10月17日(金)	五加北 五加南	五加ほほえみサロン	21人	福井Ag
10月20日(月)	越原南	黒渕クラブ	20人	福井Ag
5回	6団地	5会場	88人	

R7年度　団地座談会開催状況

●座談会の内容

まず初めに、森林組合から、これまで森林組合が行ってきた東白川村における森林づくりの取組みの説明がされました。

東白川村では、これまで「100年の森林づくり構想」を基に、東濃ヒノキの産地として、作業路の開設と強度間伐、定性間伐による長伐期施業を行い、優良材生産を進めてきました。

参加された組合員の方々も、東濃ヒノキの産地としての森林づくりに誇りをもって取り組まれてきました。

その後、近年の森林整備事業の予算状況や、林業がおかれている現状等について林業普及指導員として次のように説明しました。

森林を取り巻く情勢は変化し、森林・林業が果たす役割は多様化し、重要となってきています。

しかし、木材価格の低迷等により、これまでの高品質な柱材生産を目的とした高密度植栽と多段階の間伐等の施業体系では採算が合わず、補助金を含めても支出が収入を上回ること、シカによる食害への対策のため再造林に多額の費用を要する等により、森林所有者等が林業経営に関心をもてず、森林整備が進まない状況です。

それらを打開するために主伐・再造林の低コスト化や省力化を図る一貫作業システム、並み材等の生産を目的とした低密度植栽とそれに応じた間伐等の施業体系の構築や、造林・保育に従事する技術者の確保・育成が必要となってきています。

また、森林技術者数の減少が見込まれる中、木材生産量を確保するため、搬出間伐から主伐へのシフトによる木材生産性の向上が必要となってきています。

●参加者の反応・意見

これまで東濃ヒノキの産地としての誇りをもって、優良材生産を目的とした森林づくりに取り組まれてきた組合

員の方々にとって、県からの説明は、なかなか受け入れがたいものであり、どこの会場でも、声には出されませんが、納得がいかないという思いがひしひしと伝わってきました。

それでも、昨今の林業がおかれている現状は理解できるとし、次のような建設的な意見が頂けました。

【主な意見】

・補助金予算や生産性の問題で低コスト施業の一つである列状間伐の必要性は理解できるが、東白川村は東濃ヒノキの産地であり、定性間伐が適していると考えている。適材適所、定性間伐の必要性や、我々の思いというものも併せて国や県に伝えてほしい。

・林業は長いスパンで考えるもの、持続的で質の高い森林づくりに取り組んできた歴史があり、そうした先人の努力を思うと、効率のみを重視し、目先の補助金に捉われて方向性を見誤らないようにしなければならない。

・皆伐後、一律に針葉樹を植えるのではなく、広葉樹を植えて自然に任せるのも、東白川の森林を守っていく一つの方法ではないかと思う。

・座談会には森林に関心がある人しか参加しない。子どもたちですら全く関心がない。関心の持てない人に関わってもらえるような情報発信を行い、東白川村の森林を次世代へ引き継いでいく必要があると思う。

●最後に

今回は、東白川村の座談会に参加し、地域で森林・林業に携わる森林組合及び組合員の方々から、様々なご意見や思いを聞かせていただきました。求められている事は経営的な支援はもちろんですが、効率性や採算性のみならず、地域の森林・林業に携わる方々の気持ちや思いに寄り添った支援も必要であることを強く感じました。

はじめに述べたように、当管内では北部と南部で理想とする森林づくりが異なります。また、市町村数は10と多く、市町村が抱える森林の課題も様々です。

今後も地域森林監理支援センターや森林研究所等と連携して、地域の実情に合わせた多様性のある普及指導活動に努めていきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

団地座談会の様子

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0574-25-3111内線（421）
可茂農林事務所まで

スマート林業通信 50

「ぎふ森の機械展」を開催しました

令和7年10月28日（火）と29日（水）に「ぎふ森の機械展」を岐阜県立森林文化アカデミー敷地内のテクニカル棟前広場で開催しました。

開催の目的は、「高性能林業機械とスマート林業関係機器が一堂に会し、岐阜県内の森林組合、林業経営体が性能、実用性を直接確認することで、岐阜県の地形等の特性に即した機器の開発・改良を促す。」です。

【概要】

○主催　ぎふ森の機械展実行委員会【岐阜県森林組合連合会及び中心となる出展者5社、（岐阜県及び岐阜県森林技術開発・支援センターは共催）】

○出展者数　17社

○参加者数　延べ約600人

○内容

●建設機械メーカー7社による30分毎の実演。【住友建機販売（株）、（株）クボタ建機ジャパン、日本キャタピラー（同）、コベルコ建機日本（株）、コマツカスタマーサポート（株）、ヤンマー建機（株）、（株）丸光イトウ・マルマテクニカ（株）】

●ドローン実演【住友林業（株）】

●チェーンソー試し切り等【バスクバーナーゼノア（株）、（株）スチール、（株）マキタ】

●グラップルの遠隔操作体験【住友建機販売（株）】

●林業機械ヘッド展示【イワフジ工業（株）、オカダアイヨン（株）】

●ハーベスタシミュレーター体験【日立建機日本（株）】

●測量機器展示【（株）ジツタ】

●ゴム製品展示【豊田合成（株）】

●林業関係商品販売【岐阜県森林組合連合会】

実演状況

○結果

ぎふ森の機械展開催2日間は、天候に恵まれ、参加者数は当初計画を大幅に上回りました。限られた会場では有りましたが17社と会場を設営いただいた（株）ヨシカワ様のご協力により機械実演等スムーズに行え、事故も無く終了することが出来ました。アンケートでは開催に対して良好な意見を多くいただくことが出来ました。

参加者から頂いたアンケート結果を各メーカーにフィードバックしましたので、各メーカーが、アンケート結果により林業機械の改良・進化のヒントを得て岐阜県の地形特性に即した機械を作って頂く事を期待します。

最後に、今回快く出展して頂いた各社、ご協力頂いた関係者の皆様に感謝申し上げます。

全景写真

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-35-2535
森林文化アカデミースマート林業推進係まで

国有林の現場から
— 111 —

バイオコークスとは？天保林とは？過去とこれからの森林活用を学ぶ

令和7年度第3回山県市森林づくり会議

山県市が森林・林業の現状と課題を踏まえ、森林整備の推進に必要な事項を検討するため設置されている、山県市森林づくり会議に岐阜森林管理署もアドバイザーとして参加しています。

山県市森林づくり会議が、その目的を達成するため、会員の知見を深める現地研修を毎年、開催しておりますが、今回、下呂市小坂町でバイオコークスの生産を行っている、ＡＬＴＥＲＮＡＴＩＶＥ　ＥＮＥＲＧＹ　ＪＡＰＡＮ（オルタナティブエナジージャパン。以降ＡＥＪと表示）と赤沼田天保林で現地研修を実施しました。

令和７年10月29日、森林づくり会議会長をはじめ13名が参加して現地研修会が開催されました。

皆さん、「バイオコークス」って聞いたことありますか？どんなものか知っていますか？

バイオ（生物資源）＋コークス（石炭を高温で蒸し焼きにして作る炭素質の個体）＝有機質の石炭の代替燃料のことです。このバイオコークスの製造を下呂市小坂町で行っているのがＡＥＪです。ＡＥＪは飛州木工の新会社です。

飛州木工の製材で出るおが粉を牛舎の敷材として利用している畜産農家から牛糞の処理に困っているとの話があり、これが循環利用できないかを検討する中で現在の取組につながる会社を設立しました。

今後、脱炭素に積極的な製鉄業へコークスの代替として販売する計画であるとの説明がありました。参加した委員からは、需要と供給の関係やどんな有機物（樹皮、鶏糞等々）でも製造できるのかなど質問があり、真剣に研修が行われました。森林づくり会議会長からは、「日本は人口減少が進む中、住宅着工戸数は減少していくので柱材生産以外の木材の利用、水平展開が必要と考えている。この取組も非常に期待している」と挨拶がありました。ＡＥＪからは、牛糞のほか農業残渣、食品残渣の活用、耕作放棄地での早生樹の育成など地域の問題解決もできたらと考えているとのことでした。

AEJ の工場の前で撮影

午後は赤沼田天保林の視察です。赤沼田天保林とは赤沼田国有林にあり、江戸時代の天保14年（１８４３年）に植栽されたヒノキを主とする人工林で、中部森林管理局管内において最も古く貴重なもので「赤沼田天保ヒノキ希少個体群保護林」として維持・保存されております。

元禄５年（１６９２年）飛騨地域は金森家の領地から幕府直轄地（天領）となり山林は全て幕府が直接管理することとなりました。

古文書によると、飛騨の天領林政は享保６年（１７２１年）以降、たびたび植樹令を発しており、尽山化（森林資源の枯渇）していることが窺い知れます。

「山方新植木一件」によると天保12年（１８４１年）に小坂村ほか46ヶ村に対し、１か所につき１戸50本の公役造林が課され、赤沼田村では天保13年に３，６２５本植栽されたと記録に残っています。

天保林の視察を終えて、委員の方々には先人たちの努力、計画的な伐採と更新の大切さを感じてもらえたのではないかと思われます。

天保の大ヒノキの前の一コマ

（岐阜森林管理署）

森林・林業関係イベントカレンダー（1月）

林業者向け

開催日	行事名等	内　容　等 （概要、定員、受講料、申込期限など）	場　所 申込（問合せ）先／TEL
令和8年 1月14日(水)～ 1月15日(木)	**木材加工用機械作業 主任者技能講習**	●講習時間：14日～15日　8:30～17:40 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：17,600円(本代含む)(振込み) ●定　員：30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター （岐阜市六条江東2-5-6） 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
令和8年 1月21日(水)～ 1月22日(木)	**リスクアセスメント担当者 安全衛生教育**	●講習時間　21日(林業)　9:00～16:30 22日(製造業) 9:00～16:30 ●申　込：開催日の2週間前まで ●受講料：12,000円(本代含む)(振込み) ●定　員：30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター （岐阜市六条江東2-5-6） 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195

コラム

11月初旬に和歌山県にある高野山の参詣道の1つ、町石道を歩きました。高野山麓の慈尊院から高野山の根本大塔まで全長約22kmの参詣道で、約109m毎に全180本の標石が設置してあり、古くから山岳信仰への道しるべとしての役割を果たしてきた道です。

旧来の山の中を歩く参詣道ですが、現在は電車や道路網の発達により、誰も歩いていません。黙々と歩いていくと、コウヤマキがスギ林の隙間に点々と自生しています。コウヤマキといえば、高野山では仏花として、岐阜では鵜飼の舟の材料です。

生育する環境、使われる用途は樹種によってそれぞれですが、どこにいても木との繋がりを感じることができるのは日本独自の風習だと思います。どんな環境に置かれてもしなやかに適応する日本の木々達のように日々柔軟に生きたいな、と考える山歩きでした。

「森林のたより」編集委員　ぎふ木遊館　田中沙紀

2月号予定

2月1日発行

イベント情報
連載
●山の歳時記（246）
清流と森と親しむ
●森林と人を活かす知恵（157）
木と親しむ
●岐阜県の公共木造建築（153）
清流の国ぎふ森林・環境税
森林・林業技術
●研究・普及コーナー
市況情報
その他

木材市場

木材市況　県森連　岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位：円（1㎥当たり）

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配
第1893回 岐阜共販所 12月9日	すぎ	3 m	16～18㎝	14,200	—	→
		4 m	16～18㎝	14,200	—	→
			20～22㎝	14,900	—	→
			24～28㎝	14,800	—	→
			30㎝以上	14,000	—	→
		6 m	16～22㎝	17,200	—	→
	ひのき	3 m	16～18㎝	21,800	—	→
			20㎝以上	19,500	26,300	→
		4 m	16～22㎝	21,300	—	→
			24～28㎝	19,500	—	→
			30㎝以上	19,200	65,300	→
		6 m	16～18㎝	—	—	→
第1493回 飛騨共販所 広葉樹祭り 12月3日	すぎ	3 m	16～22㎝	14,200	—	→
		4 m	24～28㎝	14,600	—	→
			30㎝以上	13,600	41,200	→
	ひのき	3 m	16～18㎝	21,000	—	→
		4 m	20～22㎝	20,500	—	→
			24～28㎝	19,200	—	→
			30㎝以上	—	—	→
		6 m	16～20㎝	—	—	→
	ひめこ	4m	24～30㎝	12,000	—	→
			30㎝以上	12,000	46,800	→
		5m	40㎝以上	—	—	→
	くり	4m	24㎝以上	14,000	69,000	→
第1827回 東濃共販所 12月11日	すぎ	3 m	16～22㎝	14,200	—	→
		4 m	24～28㎝	14,700	—	↗
			30㎝以上元	15,000	23,000	→
	ひのき	3 m	16～22㎝	21,500	36,000	↗
			24～28㎝	19,800	34,000	↗
			30㎝以上元	28,000	—	→
		4 m	13㎝以下	12,000	—	→
			16～22㎝	21,700	—	→
			24～28㎝	19,800	43,000	→
			30㎝以上元	29,000	91,000	↗
		6 m	18～22㎝	29,500	147,000	→
	まつ	4 m	30㎝以上元	—	—	→

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

【商況】

スギ4mの元木・尺上良材は、入札多数で活気あり、価格は保合。スギラミナ向け3m・4m材は強含み。ヒノキ元木良材4mは入札旺盛で活気あり、価格は強含みで引き合いは強い。ヒノキ3m・4m構造材の価格は強含み。合板向けの価格は保合ながら納材は順調。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。（岐阜）

スギ、ヒノキの並材は横ばいであるが。ヒノキ良材は引き合いが強い。ヒメコも大径良質材に高値が付いた。広葉樹は冬期の仕入れのため全体的に引き合いが強い。高値は、ヒノキ3m×48cm@100,000円、スギ4m×76㎝@41,200円、ヒメコ4m×42cm@46,800円、ナラ2.2m×76㎝本代152,300円、ホウ3.0m×50㎝@61,300円、ホウ2.2m×36～38㎝@38,000円、ブナ2.2m×62㎝@46,900円、クリ2.2m×42㎝@65,800円、クリ4.2m×36㎝@69,000円、ミズメ4.0m×50㎝@96,000円、サクラ2.1m×42㎝@63,500円、オニグルミ2.1m×44㎝@70,000円、広葉樹祭り　最高額　トチ4.8m×64㎝本代1,300,000円（飛騨）

スギ・ヒノキ　良材に多数の応札があり、活気を見せた。ヒノキでは、4m元木や中目良材が地元工務店を中心に非常に強い引き合いとなった。3m材は役物材が多く、引き合いは強く価格も強気。3m・4m構造材全般に価格は保合ながら引き合いは強い。一方、2m尺上良材は堅調な引き合いを維持するものの、20cm以下の材は価格の伸びが鈍く弱含みとなった。スギでは、元木・中目良材は価格保合で推移。4m（24cm以上）の構造材は保合、3m材も保合。6m長柱向け材（16～20cm）は引き続き好調を維持。合板向けは、価格保合ながらも納材は順調に進んでおり、ラミナ向けもスギ、ヒノキともに活発な動き。（東濃）

製品卸売標準価格（11月期）

単位：円

樹種	用途	寸法（mm） 長	巾	高	等級	m³当り価格	（本（枚）単価）	前月比較
スギ	柱	3000	105	105	1等	68,000	（ 2,249）	→
	間柱	3000	105	30	1等	70,000	（ 662）	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	77,000	（ 3,396）	→
	柱	3000	120	120	特等	75,000	（ 3,240）	→
		6000	120	120	特等	155,000	（ 13,392）	→
Wウッド集成材	柱	3000	105	105	国産5層	85,000	（ 2,800）	→
		3000	120	120	国産5層	88,000	（ 3,800）	→

※日刊木材新聞調べ（名古屋標準相場　全てKD材）

外材市況（11月期）

単位：100円（1㎥当たり）

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	414	→
	コースト（目荒）	432	→
米栂	ヘム（アラスカ産）	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場（径級は30㎝上、米松コーストのみ大阪相場）

これってなあに？～木材用語～

単式市場（たんしきいちば）／複式市場（ふくしきいちば）

市売り（荷主が問屋に商品の販売を委託し、問屋は仲買いにせり又は入札で販売する）を行う事業所を市売り市場といい、その市場が自ら問屋業務を行うものが単式市場、複数の問屋に集荷・販売業務を行わせるものを複式市場という。主として製材品を扱うものを製品市場、原木を扱うものを原木市場といい、それぞれ単式・複式がある。

（参考）日刊木材新聞社　木材・建材用語辞典